

強盗想定、職員が 通報や対処確認

岐阜信金本店で防犯訓練

高額取引が多くなる年末年始を前に、岐阜信用金庫は15日、岐阜市神田町の本店で防犯訓練を行った。職員30人が、強盗犯が押し入ったケースを想定して対応を確認した。

岐阜中署生活安全課の男性署員が強盗役になり、サライーマン風の格好で窓口に着席。手に持ったライタ―を見せながら、窓口の職員に「かばんの中のガソリンをまいて火をつけるぞ」「誰とも話すな!この袋に金を入れてもう一度ここに返ってこい!」などと書いた紙を無言で示した。写真。職員は非常通報ボタンを押したり、カラーボールや刺股を持って逃げた犯人の行方を追ったりした。

同金庫の吉田肇夫理事本店営業部長は「まずは未然防止が大切で、相手の顔を見た声掛けが日頃から大事になる。詐欺も含め、犯罪を防ぐ意識をしっかり持つてほしい」と職員に呼び掛けた。

(山本貴史)

